

音楽大学への進学と卒業を経て～ヴァイオリニストへの道～

伊藤万桜(No.4303)

私は、都立芸術高等学校音楽科を経て、2017年春、東京音楽大学音楽学部の弦楽器専攻を次席で卒業し、現在、同大学院の科目等履修生として演奏技術の研鑽に励んでいます。

大学では、憧れていたヴァイオリニストの大谷康子先生や海野義雄先生の指導を受けており、教授陣の熱心さや設備、伴奏ピアニストの先生、演奏仲間等、大変恵まれた環境にいることに感謝しています。

3歳から習い始めたヴァイオリンですが、中学受験の時には塾とレッスンを掛け持ちし、入学した中高一貫校では、高校進級時に文系か理系かで悩み、最後はどちらも好きな数学かヴァイオリンかで悩みました。今でも、塾に通った頃が懐かしく、大変でしたが、私の糧となっていると思います。

そして、高校受験して入学した音楽科での専攻楽器を越えたネットワークは、友情とともに、今後の演奏活動になくはならない人材集団となっており、当時の担任の先生は、クラスの誰かの演奏会があると、いつも花束を抱えて遠方から駆けつけてくださる等、こういう長い励ましもとても大きな支えとなっています。音楽の高校へ進んだ時から、ヴァイオリニストになるという、私の将来への夢・希望は不変なものとなり、特に大学では、その実現へ向け濃密な時間を過ごすことができました。それも、檜の芽会様からの奨学金のお陰であり、大したアルバイトもせずに思う存分、演奏や練習に時間を当てることができたことは、本当にありがたく言葉に尽くせない感謝の思いでいっぱいです。

さて、音大でヴァイオリンというと、華やかな演奏会のドレス姿や高価な楽器のイメージが先行しますが、実態は余り知られていないと思います。教養課程の他は専攻別個人授業のため、自分のことしかお話しできませんが、今回は2つに絞って書きたいと思います。

1つ目は、プロフィールです。よく演奏会のプログラムで写真と一緒に紹介される文で、文字がびっしりなので余り読まれていないかもしれませんが、実は、演奏家の濃縮された履歴書です。私の場合、その掲載スペースによって、200～1200文字位のものを用意し、随時更新して利用しています。内容には、師事した先生、コンクールの受賞歴、音楽祭や演奏会等への出演歴をはじめ、最近の活動等が記載されています。例えば、コンクールでは一次・二次予選・本選と受けて、遠い時には伴奏ピアニストの方と泊りがけで向い、現地では音出しの場所を借りて臨んだ結果、入賞できれば記載しますが、そうでないと記載できない厳しいものです。海外の音楽祭やマスタークラスでは、一人で楽器を背負って飛び立ち、ヨーロッパ便では現地到着が夜になることが多いので、空港近くのホテルで1泊



してから、特急等で開催地へ向い、会場では初顔合わせのスペイン人の方々と弦楽四重奏団を組んだり、フランス・韓国の参加者と寄宿舎で1週間位同室になったりしたこともあります。また、イタリア人通訳に先生のイタリア語を英語に通訳して貰ったこともあります。海外での演奏経験は、団体も含めて、ドイツ3回、フランス1回、イタリア1回ですが、共通語は英語と音楽で、世界は広くて狭いという思いを強くしています。そういった裏の奥深いところがプロフィールには淡々と刻まれているのです。



ドイツ キルヒベルク音楽祭にて 2015.08

2つ目は、演奏会です。形式で分けると、単独でピアニストの伴奏で演奏するリサイ

タル演奏会、オーケストラとソリストによる演奏会、数種類の楽器とのアンサンブル、オーケストラの一員としての演奏会、また伴奏なしで弾くこともあります。一番多いのはピアニストとの演奏会です。中でもプロのオーケストラとの共演は大変貴重なもので、私は幸運にも、大学4年の時に、上野正博氏指揮による東京フィルハーモニー交響楽団様と、チャイコフスキーの協奏曲でソリストとして共演させて頂くことが叶いました。ヴァイオリンのコンチェルトではこのチャイコフスキー作曲のものが一番有名と言えるし、私自身、節目では必ずこの曲を弾いてきたので、思い出も深く特別なものがありました。さらに、リサイタル演奏会では、ある出会いからのご支援により、100名程のホールで大学時代に3回も開催させて頂き、いずれも満席とすることが出来ました。プログラムを練ってチラシを製作しチケットを販売する全ての工程に関われたので手応えがあり、幅広い世代のお客様やご支援くださる方々との近距離でのふれあいも大きな収穫でした。また、オーケストラの一員として、一流の指揮や大ホールの舞台も経験しました。それぞれの演奏会には5W1Hがあり、テーマ、曲、パ



練馬区文化センター 東京フィルハーモニー交響楽団と共演 2016.12

ートナー、場所や季節、お客様によって、イメージの膨らませ方や弾き方が変わります。まだスタートしたばかりの私の演奏活動ですが、聴く人の心が潤って、また聴きたい・弾いて欲しいと言って頂けることに喜びとやりがいを感じているので、これからもお客様に毎回ベストの演奏をお届けすることを心掛けていきたいと思っています。

と、ここまで一気に書いてきましたが、まだまだ書き足りない部分があります。また機会がありましたら、寄稿をお許し願いたいと思います。私は、大学4年間を檜の芽会奨学生として過ごさせて頂いた上に、今回、奨学金一部返還免除の荣誉にもあずかり、かつ、懇親会での演奏機会も頂きまして、本当にありがとうございました。皆さまに、どこかで私の名前を見かけて頂けるようなプロのヴァイオリニストとして精進したいと思いますので、今後共どうぞよろしく願いいたします。